

2 学年〇・〇・〇組 女子保健体育科学習指導案

福岡市〇〇中学校
指導者 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇

1 単元 球技「バレーボール」

2 指導観

- 本単元で取り扱うバレーボールは、ネットを境に相対した2チームがパス・トス・サービス・スパイクなどを用いて攻防を展開し、得点を競い合うスポーツである。最近では、ソフトバレーボールやビーチバレーボールなどボールやコートを変えて行う競技も増え、楽しみながら仲間とゲームを行える運動として親しまれている。また、バレーボールは生涯体育・スポーツとして、地域や職場などのコミュニケーション的な軽スポーツや、ママさんバレーボールに代表される生活文化的なスポーツとして、根強い人気があり、人々の生活を潤すスポーツとなっている。

学習内容としては、パス・トス・サービス・スパイクなどの個人的技能や、戦略的な攻撃としての集団的技能がある。これらのことを学習していく中で、チーム内での役割や個人の課題に応じて工夫し、ゲームに生かすことにより、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。

- 本学級の生徒は女子60名、バレーボール経験者は6名いる。授業において、見学や忘れ物をする生徒が少なく、自ら進んで授業に参加しようとする態度が見受けられる。また、体育委員やリーダーを中心としてお互い声をかけ合い、高めあおうとすることもできている。バレーボールについては1年時に授業を経験しており、楽しいと答えた生徒は20%、楽しくないと答えた生徒は3%である。また、オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの仕方は知っているが、正確な技能としては身につけておらず、ゲーム中もラリーが続かなかった。それは、楽しくないと答えた生徒の理由にもラリーが続かないからと答えた生徒が多かったことからわかる。2年時では、正確なパスの習得と新たにスパイクの習得をさせ、それらの技能を生かしたゲームをさせたい。

- 本単元の指導にあたっては、バレーボールの特性を理解し、仲間と協力しながら個人の課題を明らかにし、主体的に課題解決学習ができる資質・能力の育成を図る。また、その中で助言を含めたコミュニケーションを技能向上の大きなポイントとしてとらえさせたい。そのためにまず、バレーボールの特性と本単元の見通しを立てるため、オリエンテーションを行い、学習の進め方を理解させる。その際、仲間同士の係わり合いの大切さを考えさせ、グループの編成を行わせる。また、グループノートの記入と活用の仕方を理解させ、毎時間の目標をもたせるとともに学習を振り返り、課題を見つけて次につなげていくことの大切さを理解させる。次に、基本的な個人的技能を習得させるため、パス・サービス・スパイクの反復練習を行わせる。さらに、集団的技能を高めるためにグループ練習やゲームを行い、ステップアップにつなげさせる。最後にリーグ戦を行い、単元全体を振り返らせ、自らの目標とグループの目標が達成できたかを確認させ、単元のまとめとする。

授業の終わりには、グループ内で話し合い、協力し合いながら、それぞれのチームや自己の能力に応じた課題解決が図れるよう指導を心がけていきたい。また、授業規律やルールや安全等に対する態度を高め、主体的な活動ができるよう促していきたい。

3 目標

- バレーボールの特性に興味・関心をもち、チームで協力しながら自己の責任を果たし、ゲームに取り組もうとする。
- お互い声の掛け合いを大切にし、個人やチームの課題解決に向けて工夫する力を身につける。
- 個人的技能や集団的技能を高め、ゲームの中で活用することができる。
- バレーボールのルールや戦術・審判方法を理解している。

4 計画 (14 時間) 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能 知：知識・理解

| 次 | 時 | 活動内容 | 目標達成の手立て | 評価規準 評価の方法 |
|---|-----------------------------|--|---|--|
| 一 | 1 | 1 オリエンテーションを通してバレーボールの特性や学び方を理解する。 ・バレーボールの特性, ルール ・授業の進め方 ・実技の教科書を使った学習 ・技能チェック ・グルーピング ・グループノートの書き方 ・コミュニケーションについて | ○学習の進め方やバレーボールの特性について説明する。 ○グループノートの活用法を説明する。 ○アドバイスの仕方について | 関：バレーボールに関心を持ち、特性や技能について理解しようとする。 様相チェック グループノート 思：仲間がやる気ができるような言葉かけを考えることができる。 グループノート |
| 二 | 5 | 2 基本的な個人的技能と集団的技術を身につける。 ・対人パス ・サーブ ・スパイク ・ためしのゲーム ・攻撃につながる意思の疎通 ・審判法の説明 | ○実技の教科書や示範を見ながら動きを確認させる。 ○教え合いを通して自己の課題を発見させ、課題の解決の方策を考えさせる。 ○仲間を励ます言葉・讃える言葉を考えさせ、積極的に声をかけさせる。 | 知：バレーボールの用語について理解している。 様相チェック グループノート 思：仲間適切なアドバイスができる。 様相チェック グループノート 関：仲間のアドバイスを素直に受け入れることができる。 様相チェック グループノート 思：仲間がやる気が出るような言葉かけを考えることができる。 |
| 三 | 4 本 時 7 / 14 | 3 練習やゲームを行い、個人的技能を高める。 ・チームで工夫して練習 ・スパイクを取り入れたゲーム ・条件付ゲームで個人分析 ・グループミーティング <ルールの工夫> 接触回数 ・ポジション固定 ・サーブの位置 ・得点 | ○基本的な技能が正しく活用されているか確認し、状況に応じて助言する。 ○お互いに声を掛け合いながら協力して練習やゲームを進めることができるように話し合わせる。 ○仲間を励ます言葉・讃える言葉をかけさせる。 ○特別ルールを設け、積極的なゲーム展開ができるようにする。 | 様相チェック 思：自己の能力を分析し、その中から課題を見つけ、解決の方策を考えることができる。 様相チェック グループノート 技：活動の中で個人技能を活用できている。 様相チェック 関：仲間と協力して活動することができる。 様相チェック |
| 四 | 4 | 4 グループ練習を生かしたゲームを楽しむ。 ・リーグ戦を行い、チーム分析 5 単元のまとめをする。 ・評価活動 | ○ゲームを通してチームの課題を見つけさせ、課題解決につながる助言を行う。 ○練習で学んだ技能を意識して活用するように助言する。 ○グループノートを活用し、活動の中で工夫した点や練習内容、声かけなどを振り返らせる。 | 関：積極的に学んだ技能を活用しようとしている。 様相チェック 思：チームの課題を解決するために分析し、作戦を立てることができる。 様相チェック グループノート 技：ゲームの中で個人の持つ技能を発揮できている。 様相チェック 知：ルールを理解している。 様相チェック 思：自己の活動を振り返り、反省することができる。 グループノート |

(1) 本時の指導観

第二次の5・6時でバレーボールの楽しさの一つであるスパイクを学習した。個人的技能に差はあるもののほとんどが意欲的に取り組んでいる。チーム練習の中でトスを上げる生徒を固定させ、リズム良く相手コートに高い位置でボールをとらえ返球する練習を取り入れている。しかし、タイミングのとれない生徒が多いので、ゲームの中で相手コートからきたボールをレシーブして、トスからスパイクにつなげていくことは難しい状態である。

そこで、本時では基本練習の中でトスを上げてスパイクを打つ練習を中心にさせる。また、チームで「1. 2. 打て」などの声かけを元気にさせる。本時のゲームのルールについても確認させる。そして、第二次までのチーム練習を生かし、チームで協力し声をかけあったゲームをさせることにより、「スパイクをとり入れたゲームをしよう」の目当て達成をはかりたい。最後にグループの評価活動をおこない次時の活動に役立たせたい。

(2) 主眼

- 基本的技能の習得を目指すとともに、スパイクをとり入れたゲームを行うことができる。
- グループミーティングにおいて戦術や作戦を立てたり、お互いアドバイスをしたりして技能を高める。

(3) 準備

- ①ホイッスル ②グループノート(筆記用具) ③バレーボール ④ホワイトボード
- ⑤得点版 ⑥フラッグ

(4) 過程

| 学習活動・内容 | 準備 | 手だて<○>と評価<◆> | 形態 | 配分 |
|---|------------------|--|------------|----|
| 1. 学習の準備をする。 ・集合、整列、出欠確認、健康観察 ・号令走ストレッチ補強運動 ・挨拶 ・本時のめあてと流れの確認をする <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> <学習のめあて> スパイクをとり入れたゲームをしよう。 </div> | | ○チャイムがなると同時に授業が始められるように集合させる。 ○素早く出欠の確認をさせる。 ○元気よく活動させる。 ○本時の課題解決のためにアドバイスを する。 ④ ○チームと個人の目標を確認させる。 | 一斉 | 10 |
| 2. チームに分かれて基本練習を行う。 ・対人パス ・スパイク ・サーブ | ② ③ | ○チームの個人技能にあった練習内容を工夫させる。 | グループ | 15 |
| 3. グループミーティング | | ○グループノートで確認 | グループ | 5 |
| 4. 本時の練習の成果を確認するためにゲームを行う。 (ルールの確認) <対戦カード>時間7分 ① A 1 A-2 A 審3 A B 1 B-2 B 審3 B ② A 3 A-1 A 審2 A B 3 B-1 B 審2 B | ① ③ ⑤ ⑥ | ○チーム内で声をかけさせながら上からの攻撃を果敢にトライさせる。 ◆技：スパイクをゲームの中で発揮できる。 <活動内容チェック> ◆思：コミュニケーションがとれている。 <活動内容チェック> | グループ | 15 |
| 5. 本時のまとめと次時の予告を聞く ・チームの反省 ・全体での反省とまとめ ・次時の予告 挨拶 | ② ④ | ○グループノートをもとに、反省や評価をさせる。 | グループ 一斉 | 5 |